



## 2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年8月5日

上場会社名 株式会社ファルテック  
 コード番号 7215 URL <https://www.faltec.co.jp/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 文屋 仁志

問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役専務執行役員 (氏名) 篠田 好洋

TEL 044-520-0290

四半期報告書提出予定日 2021年8月6日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無：無

四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第1四半期の連結業績（2021年4月1日～2021年6月30日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	16,755	33.2	617	—	646	—	304	—
2021年3月期第1四半期	12,582	△37.0	△1,214	—	△1,165	—	△856	—

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 1,272百万円 (—%) 2021年3月期第1四半期 △1,345百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	32.44	—
2021年3月期第1四半期	△91.34	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第1四半期	67,636	21,913	29.3	2,114.94
2021年3月期	69,463	21,158	27.4	2,027.76

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 19,833百万円 2021年3月期 19,016百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	29.00	29.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期（予想）	—	0.00	—	29.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	73,000	4.6	2,200	12.2	2,200	△22.4	1,000	△26.7	106.63

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社 （社名） 、 除外 一社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2022年3月期1Q	9,378,600株	2021年3月期	9,378,600株
② 期末自己株式数	2022年3月期1Q	728株	2021年3月期	687株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2022年3月期1Q	9,377,891株	2021年3月期1Q	9,377,972株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(会計方針の変更)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当社グループを取り巻く経営環境は、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により経済活動が停滞しておりますが、ワクチン接種の開始等により緩やかな回復基調にあります。然しながら各国でワクチン接種の進捗に差があることや新型コロナウイルス変異株の出現、世界的な半導体の供給不足等あり、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当社グループの属する自動車業界の概況は、グローバル生産・販売台数が堅調に回復しつつありますが半導体供給不足によるお客様の生産調整が断続的に発生しております。

このような情勢の中、当第1四半期連結累計期間の売上高は、一部で半導体供給不足の影響があったものの、グローバルでの生産・販売台数の回復を受け、16,755百万円（前年同期比33.2%増）となりました。営業利益は、売上高増に伴う利益増及び、ものづくり原価低減活動を推進したこと等により617百万円（前年同期は1,214百万円の営業損失）となりました。主に営業利益が増加したことに伴い、経常利益は646百万円（前年同期は1,165百万円の経常損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、304百万円（前年同期は856百万円の親会社株主に帰属する四半期純損失）となりました。

セグメントの業績は、以下のとおりであります。

（日本）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、半導体供給不足の影響等あったものの、前年同期の新型コロナウイルス感染症に伴う影響からは回復基調にあり12,739百万円（前年同期比33.0%増）となりました。セグメント利益は、売上高増に伴う利益増また、ものづくり原価低減活動を推進したこと等により大幅に改善し483百万円（前年同期は1,008百万円のセグメント損失）となりました。

（アジア）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、前年同期の新型コロナウイルス感染症に伴う影響からお客様の生産台数・販売台数が大幅に増加し、2,543百万円（前年同期比60.6%増）となりました。セグメント利益は、売上高増に伴う利益増また、ものづくり原価低減活動を推進したこと等により333百万円（前年同期は22百万円のセグメント損失）となりました。

（北米他）

売上高（セグメント間売上高を含まない）は、1,473百万円（前年同期比3.7%増）となりました。セグメント損失は、売上高増に伴う利益増の中、第2四半期立ち上がりの新規車種の準備費用を計上し223百万円（前年同期は235百万円のセグメント損失）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当四半期連結会計期間末における総資産は67,636百万円となり前連結会計年度末比で1,826百万円の減少となりました。このうち、流動資産は36,848百万円となり前連結会計年度末比で2,105百万円の減少となりました。流動資産の主な減少は、お客様の生産調整による当四半期の対前四半期での売上減少に伴う受取手形及び売掛金の減少2,155百万円等であります。また、固定資産は30,787百万円となり前連結会計年度末比で278百万円の増加となりました。固定資産の主な増加は、建設仮勘定の増加428百万円等であります。

負債は45,723百万円となり前連結会計年度末比で2,581百万円の減少となりました。このうち、流動負債は30,324百万円となり前連結会計年度末比で1,205百万円の減少となりました。流動負債の主な増減は、お客様の生産調整による当四半期の対前四半期での仕入減少に伴う支払手形及び買掛金の減少1,521百万円、賞与引当金の取崩等による減少663百万円、短期借入金の借入による増加1,028百万円等であります。また、固定負債は15,399百万円となり前連結会計年度末比で1,376百万円の減少となりました。固定負債の主な減少は、長期借入金の返済による減少1,113百万円等であります。

純資産は21,913百万円となり前連結会計年度末比で754百万円の増加となりました。純資産の主な増加は、為替換算調整勘定の増加824百万円等であります。

当社グループが重要視している当四半期連結会計期間末の自己資本比率は29.3%となり、前連結会計年度末比で1.9ポイントの上昇となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2021年5月13日の「2021年3月期 決算短信」で公表致しました通期の連結業績予想から変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,710	12,662
受取手形及び売掛金	17,409	15,253
商品及び製品	3,256	3,326
仕掛品	606	939
原材料及び貯蔵品	3,165	3,084
その他	1,808	1,584
貸倒引当金	△2	△2
流動資産合計	38,954	36,848
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	10,064	10,237
機械装置及び運搬具(純額)	6,476	6,364
工具、器具及び備品(純額)	1,096	1,156
土地	6,455	6,497
リース資産(純額)	1,368	1,078
建設仮勘定	2,097	2,526
有形固定資産合計	27,557	27,861
無形固定資産	966	945
投資その他の資産		
投資有価証券	360	349
繰延税金資産	1,328	1,321
その他	302	315
貸倒引当金	△6	△6
投資その他の資産合計	1,984	1,980
固定資産合計	30,508	30,787
資産合計	69,463	67,636

（単位：百万円）

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,055	6,533
電子記録債務	4,048	4,100
短期借入金	7,614	8,642
1年内返済予定の長期借入金	4,607	4,404
リース債務	1,055	940
未払法人税等	493	314
賞与引当金	1,034	370
その他	4,620	5,017
流動負債合計	31,529	30,324
固定負債		
長期借入金	10,232	9,118
リース債務	518	293
退職給付に係る負債	4,584	4,538
再評価に係る繰延税金負債	1,007	1,007
その他	432	441
固定負債合計	16,775	15,399
負債合計	48,305	45,723
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,291	2,291
資本剰余金	609	609
利益剰余金	14,255	14,287
自己株式	△0	△0
株主資本合計	17,155	17,187
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	71	68
土地再評価差額金	2,040	2,040
為替換算調整勘定	483	1,308
退職給付に係る調整累計額	△734	△770
その他の包括利益累計額合計	1,860	2,646
非支配株主持分	2,141	2,079
純資産合計	21,158	21,913
負債純資産合計	69,463	67,636

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
売上高	12,582	16,755
売上原価	11,719	13,947
売上総利益	863	2,807
販売費及び一般管理費	2,078	2,190
営業利益又は営業損失(△)	△1,214	617
営業外収益		
受取利息	9	12
受取配当金	5	5
持分法による投資利益	—	2
補助金収入	56	—
助成金収入	28	36
その他	31	16
営業外収益合計	131	72
営業外費用		
支払利息	33	28
為替差損	14	6
持分法による投資損失	28	—
その他	5	9
営業外費用合計	82	43
経常利益又は経常損失(△)	△1,165	646
特別損失		
固定資産除売却損	2	8
工場休止損失	21	—
特別損失合計	23	8
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,189	637
法人税等	△323	263
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△866	374
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△9	70
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△856	304

(四半期連結包括利益計算書)  
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△866	374
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17	△3
繰延ヘッジ損益	0	—
為替換算調整勘定	△640	937
退職給付に係る調整額	143	△36
その他の包括利益合計	△479	897
四半期包括利益	△1,345	1,272
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,261	1,089
非支配株主に係る四半期包括利益	△84	183

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取る見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

これにより、収益は顧客との契約において約束された対価の値引等に該当する取引については、従来は受取手形及び売掛金の消滅を認識しておりましたが、値引等に係る負債を流動負債のその他として認識する方法に変更いたしました。また、買戻し契約に該当する有償支給取引については、従来は支給品について棚卸資産の消滅を認識しておりましたが、棚卸資産を引き続き認識する方法に変更いたしました。さらに、代理人取引に該当する取引については、売上高を受け取る対価の総額から仕入先に対する支払額を差し引いた純額で認識する方法に変更いたしました。その他、顧客に支払う取引価格に対する報奨額については、販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、売上高から控除する方法に変更いたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は408百万円、売上原価は398百万円、販売費及び一般管理費は10百万円それぞれ減少しましたが、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益への影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高への影響はありません。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」（企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」（企業会計基準第10号 2019年7月4日）第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。これによる、四半期連結財務諸表への影響はありません。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の（追加情報）に記載した新型コロナウイルス感染症の今後の影響についての仮定に、重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2020年4月1日 至 2020年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	アジア	北米他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	9,578	1,583	1,420	12,582	—	12,582
セグメント間の内部売上高 又は振替高	292	17	△0	309	△309	—
計	9,871	1,601	1,419	12,892	△309	12,582
セグメント利益又は損失 (△)	△1,008	△22	△235	△1,266	52	△1,214

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2021年4月1日 至 2021年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	日本	アジア	北米他	計		
売上高						
外部顧客への売上高	12,739	2,543	1,473	16,755	—	16,755
セグメント間の内部売上高 又は振替高	214	23	—	237	△237	—
計	12,953	2,566	1,473	16,992	△237	16,755
セグメント利益又は損失 (△)	483	333	△223	594	23	617

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は、セグメント間取引消去であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

3. (会計方針の変更)に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

当該変更により、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間の「日本」の売上高は408百万円減少しております。なお、セグメント利益への影響はありません。